

東北地方 1か月予報

(6月28日から7月27日までの天候見通し)

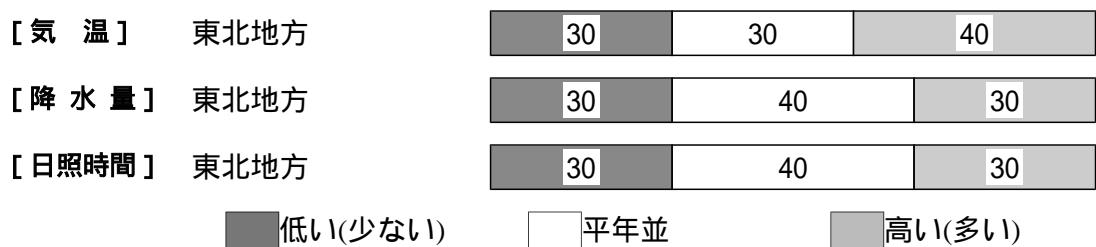
平成20年6月27日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

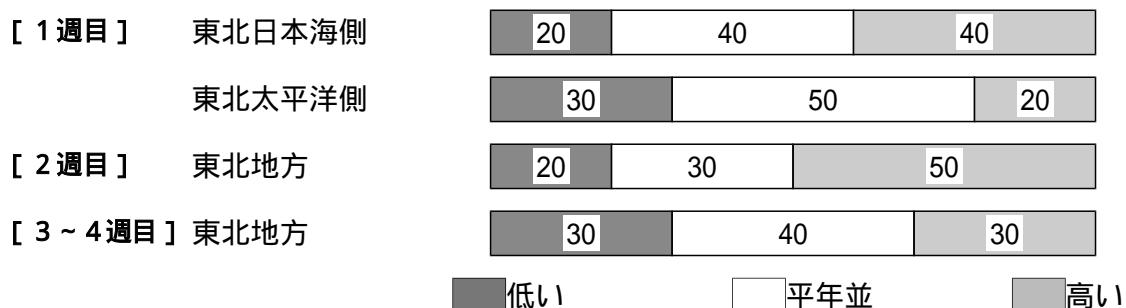
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
東北地方は、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

週別の気温は、1週目は東北日本海側で平年並または高い確率がともに40%、東北太平洋側で平年並の確率が50%、2週目は高い確率が50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

- 1か月 : 6月28日(土) ~ 7月27日(日)
1週目 : 6月28日(土) ~ 7月4日(金)
2週目 : 7月5日(土) ~ 7月11日(金)
3~4週目 : 7月12日(土) ~ 7月25日(金)

<次回発表予定等>

- 1か月予報: 毎週金曜日 14時30分 次回は7月4日
3か月予報: 7月24日(木) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3～4週目
青森	20.5	95.6	170.2	18.7	19.7	21.4
深浦	20.7	138.7	170.6	19.0	20.0	21.6
むつ	19.0	118.9	144.6	17.2	18.2	19.8
八戸	19.5	112.9	159.1	17.7	18.8	20.5
秋田	22.2	177.3	162.2	20.5	21.4	23.0
盛岡	21.2	160.4	135.5	19.6	20.5	22.0
大船渡	20.4	173.9	139.4	18.8	19.8	21.2
宮古	19.3	139.4	137.5	17.5	18.7	20.2
仙台	21.4	166.7	116.4	19.7	20.7	22.3
石巻	20.8	136.3	135.9	19.1	20.1	21.6
山形	22.6	145.0	142.2	21.0	22.0	23.4
新庄	21.7	187.4	141.6	20.2	21.1	22.5
酒田	22.5	185.8	166.0	20.9	21.8	23.4
福島	22.9	150.9	121.5	21.2	22.3	23.7
若松	22.8	164.9	153.3	21.2	22.2	23.6
白河	21.4	192.5	117.9	19.8	20.9	22.2
小名浜	21.2	135.1	137.6	19.7	20.6	22.0

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971～2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.3～+0.5	87～112	92～108
東北日本海側	-0.3～+0.5	83～117	89～107
東北太平洋側	-0.2～+0.6	84～113	91～111

(3) この予報期間の1週目、2週目、3～4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3～4週目
東北地方	-0.7～+0.6	-0.8～+0.6	-0.6～+0.8
東北日本海側	-0.6～+0.6	-0.6～+0.5	-0.5～+0.7
東北太平洋側	-0.8～+0.6	-0.9～+0.7	-0.5～+0.8

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を受けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成20年6月27日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(6月28日~7月27日) :

前線や気圧の谷の影響を受けて、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

1週目(6月28日~7月4日) :

前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多いですが、期間の中頃は高気圧におおわれて晴れの日があるでしょう。

平均気温は東北日本海側で平年並または高い確率とともに40%、東北太平洋側で平年並の確率が50%です。

2週目(7月5日~7月11日) :

前線や気圧の谷の影響を受けて、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

平均気温は高い確率が50%です。

3~4週目(7月12日~7月25日) :

前線や気圧の谷の影響を受けて、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

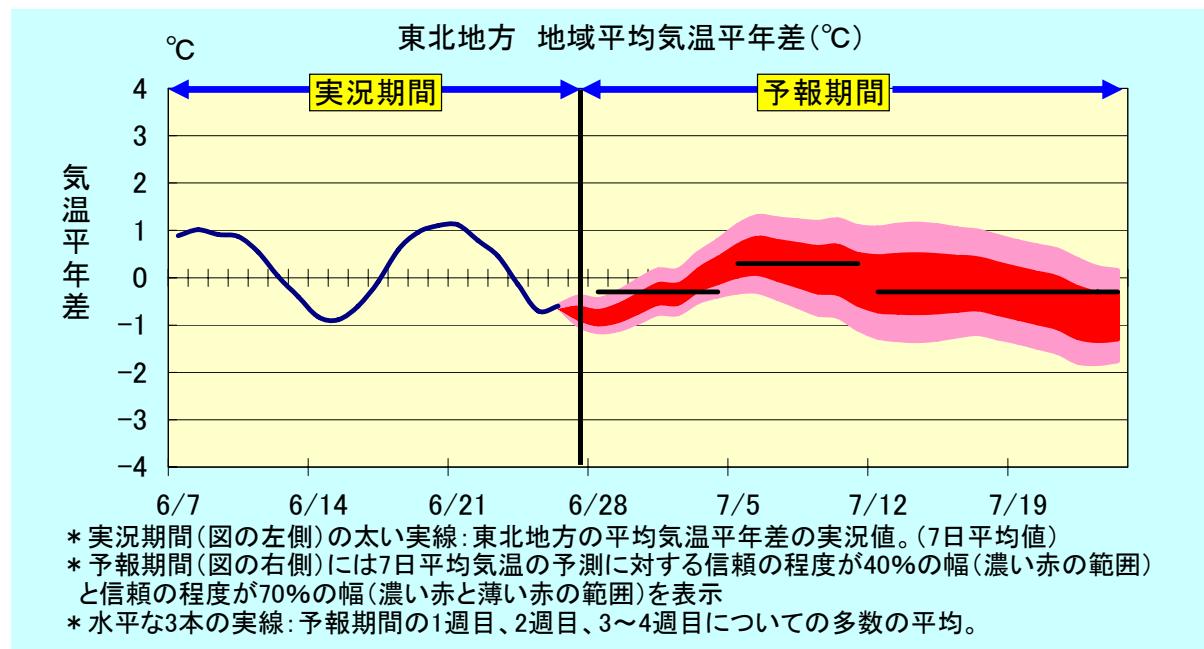
平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	12.2日	2.9日	2.6日	6.7日
東北太平洋側	10.4日	2.4日	2.3日	5.7日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別のアンサンブル平均気温は、1週目は平年をやや下回り、2週目は平年をやや上回り、3~4週目は平年をやや下回る予想となっている。予報は、その他の資料から期間を通してやや高めに考える。

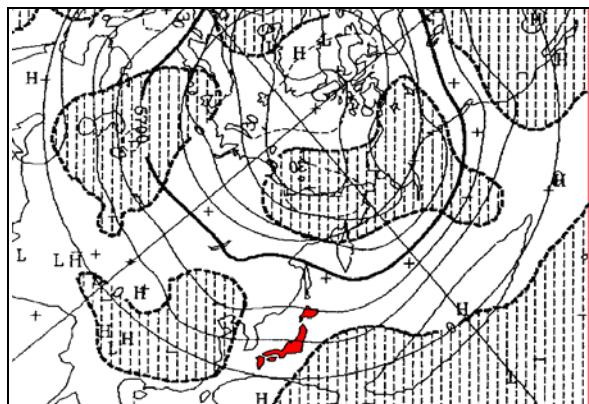


3. 1か月平均と1, 2週目の上空の大気の流れの予想 (500 hPa 予想天気図)

1か月平均:ユーラシア大陸の中緯度の波列が明瞭で、中国付近は負偏差、日本付近は正偏差で気温は高めが予想される。また、日本の南東海上の対流活動が活発で前線をやや北に押し上げる見込み。そのため、東北地方は前線や気圧の谷の影響を受けやすい。

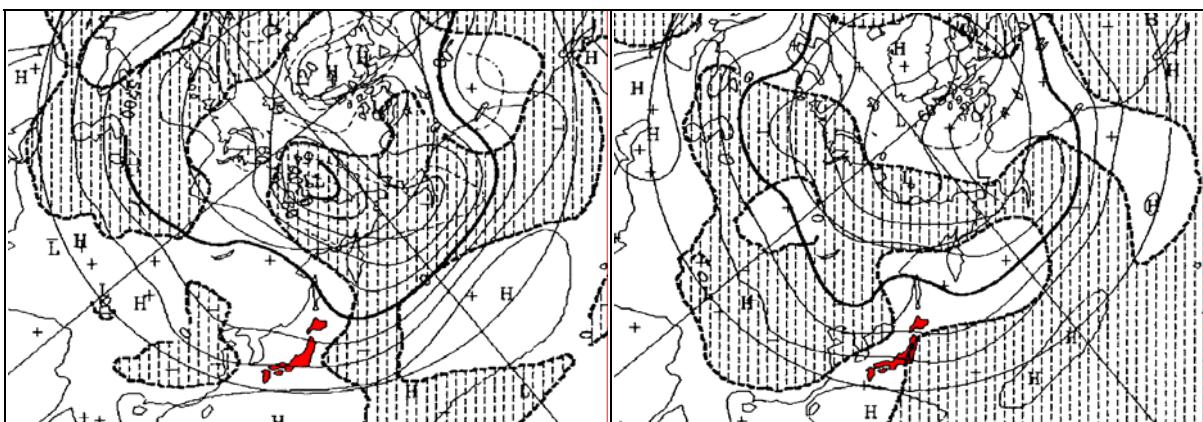
1週目:亜熱帯高気圧は西に張り出すため、梅雨前線は本州付近に停滞し、東北地方は前線や低気圧の影響を受ける見込み。

2週目:東北地方には東海上の負偏差がかかるが、日本付近は大陸からの中緯度の波列の正偏差がかかるため、気温は高めが予想される。また、前線は1週目に引き続き本州付近に位置する可能性が大きい。



1か月平均 500hPa 予想天気図

(図の見方は1,2週目と同じ
ただし平年差の間隔は30m毎)



1週目平均 500 hPa 予想天気図

2週目平均 500 hPa 予想天気図

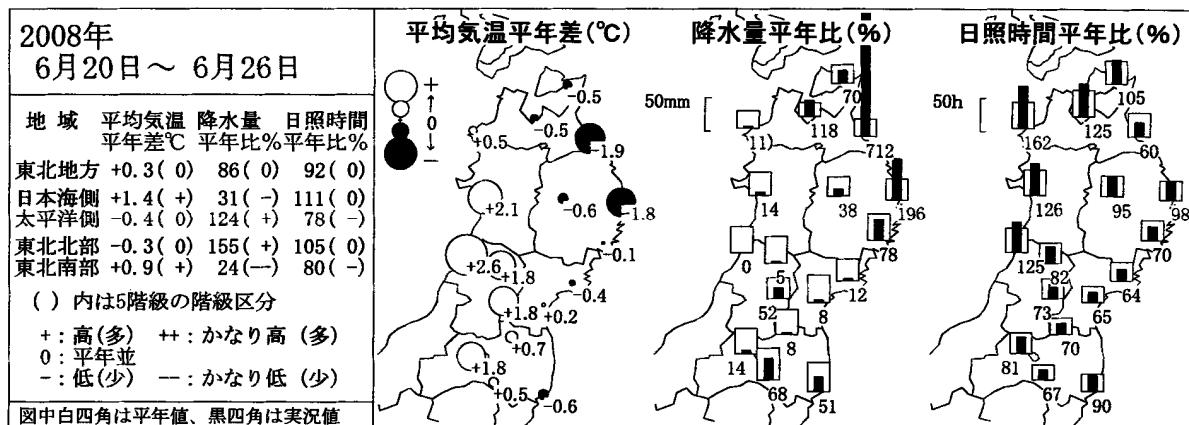
実線は、等高度線（間隔 60m）、点線は、平年差（間隔 60m）

陰影部は、負偏差で一般に寒気に対応する 白抜きは、正偏差で一般に暖気に対応する

4. 最近1週間 (6月20日～6月26日) の天候の経過

この期間、前線や低気圧の影響により東北太平洋側では曇りの日が多くなったが、東北日本海側では梅雨前線や低気圧の影響は小さく晴れる日が多くなった。東北日本海側や東北南部では降水量は少なかつたが、青森県や岩手県の太平洋側沿岸部では23日から24日にかけて三陸沖を北東進した低気圧の影響により大雨となり、岩手県久慈市で道路法面の崩壊、岩手県洋野町で床下浸水などの被害が出た。

平均気温は東北日本海側で高く、東北太平洋側で平年並。降水量は東北北部で多く、東北南部でかなり少ない。日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で少ない。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）